資料３

地域自殺実態プロファイル 2021

【埼玉県久喜市】

（行政区コード：112321）

推奨される重点パッケージ

重点パッケージ	２０２１年	※２０２０年	※２０１９年
	高齢者	高齢者	高齢者
	生活困窮者	生活困窮者	生活困窮者
	勤務・経営	勤務・経営	

・「推奨される重点パッケージ」は下記「地域の自殺の特徴」の上位３区分の自殺者の特性と「背景にある主な自殺の危機経路」を参考に「子ども・若者」、「勤務・経営」、「生活困窮者」、「無職者・失業者」、「高齢者」の中から選定している。
・「推奨される重点パッケージ」は過去５年の合計に基づいており、集計年により異なる可能性がある。また、経年的な推移（過去５年の増加傾向等）は考慮していない。

■地域の自殺の特徴

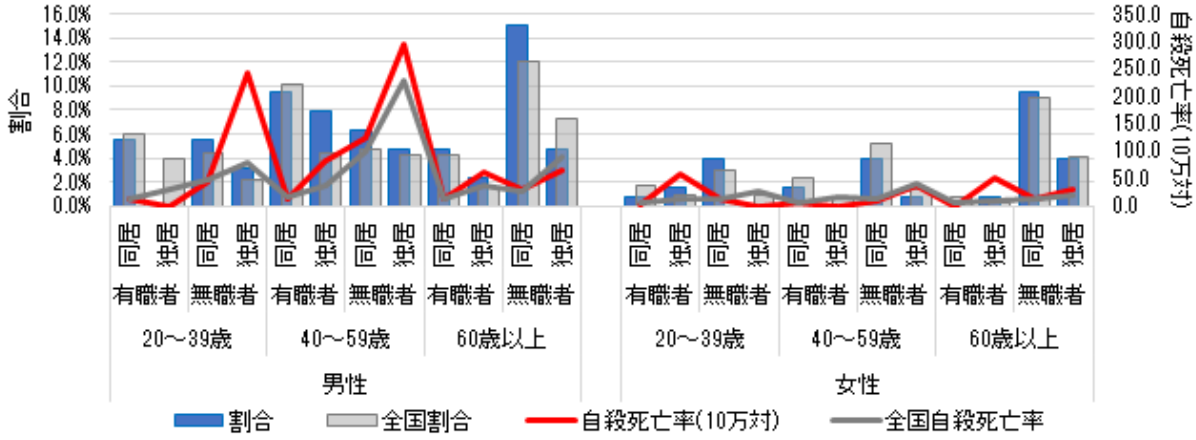
・埼玉県久喜市（住居地）の 2016～2020 年の自殺者数は合計 126 人（男性 91 人、女性 35 人）であった（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）より集計）。

地域の主な自殺者の特徴（2016～2020 年合計）　＜特別集計（自殺日・住居地）＞

自殺者の特性上位５区分	R2	自殺者数（5 年計）	割合	自殺死亡率*（10 万対）	背景にある主な自殺の危機経路**
1 位:男性 60 歳以上無職同居	→1 位	19	15.1%	30.0	失業（退職）→生活苦＋介護の悩み（疲れ）＋身体疾患→自殺
2 位:男性 40～59 歳有職同居	↑3 位	12	9.5%	14.3	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み＋仕事の失敗→うつ状態→自殺
3 位:女性 60 歳以上無職同居	↓2 位	12	9.5%	11.9	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4 位:男性 40～59 歳有職独居	↑5 位	10	7.9%	81.2	配置転換（昇進/降格含む）→過労＋仕事の失敗→うつ状態＋アルコール依存→自殺
5 位:男性 40～59 歳無職同居	↑6 位以下	8	6.3%	123.6	失業→生活苦→借金＋家族間の不和→うつ状態→自殺

資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計
・区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。
* 自殺死亡率の算出に用いた人口（母数）は、平成 27 年国勢調査を基に JSCP にて推計したもの。
** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書 2013」を参考に推定したもの（詳細は付表の参考表１参照）。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意いただきたい。

地域の自殺の概要（2016～2020 年合計）＜特別集計（自殺日・住居地）＞



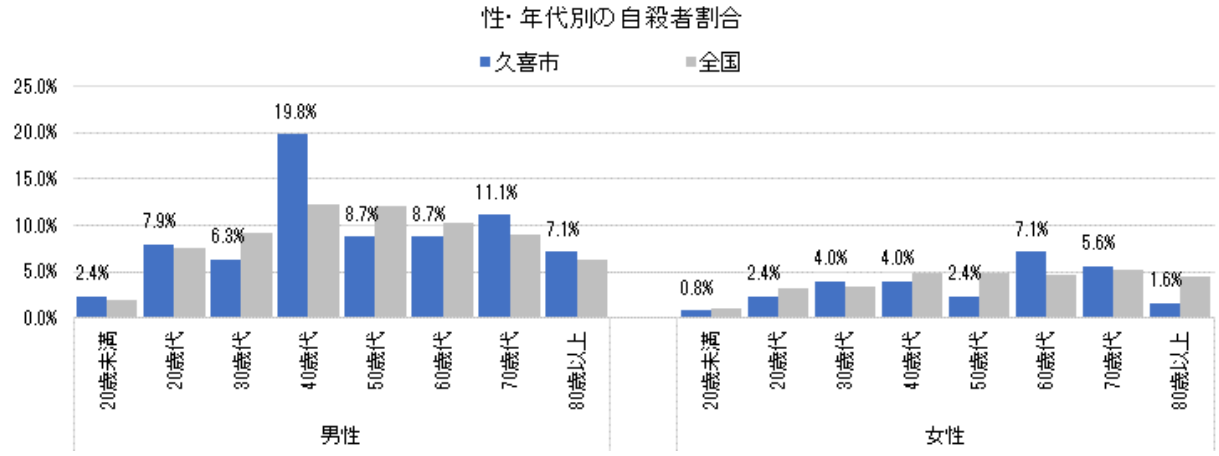
資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計

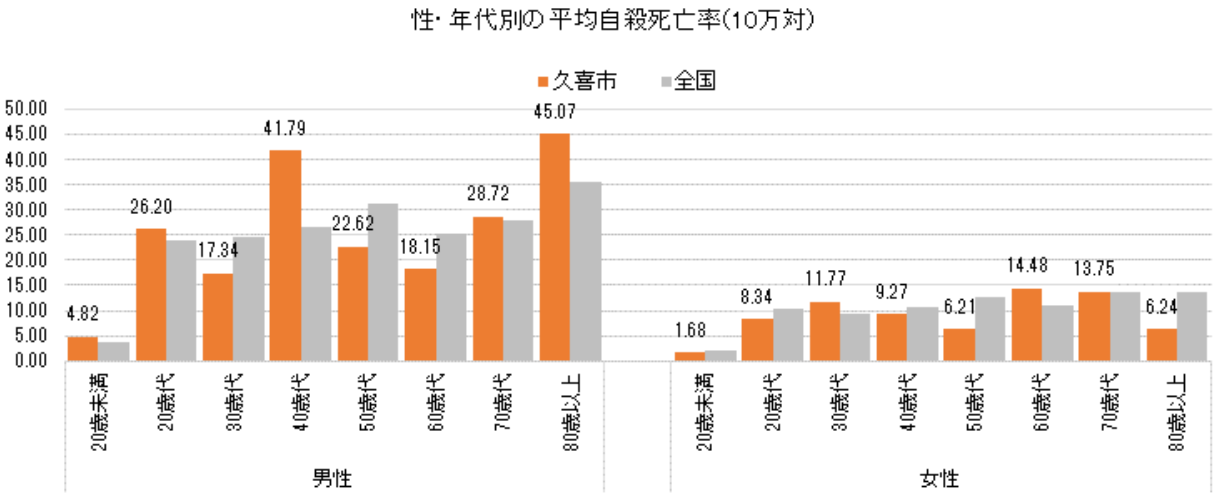
■全般的な状況

自殺者数および自殺死亡率の推移（2016～2020 年）

	2016	2017	2018	2019	2020	合計	平均
自殺統計（自殺日・住居地）自殺者数	30	25	27	26	18	126	25.2
自殺統計（自殺日・住居地）自殺死亡率	19.4	16.2	17.5	16.9	11.8	－	16.4
人口動態統計　自殺者数	27	25	30	26	16	124	24.8

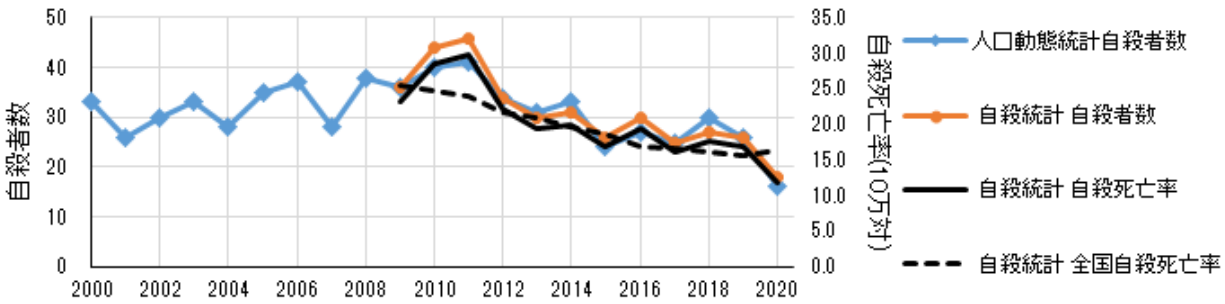
性・年代別（2016～2020 年）　＜地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地）＞





・性・年代別の自殺者割合は、全自殺者に占める割合を示す。

長期的な推移



■勤務・経営関連資料

有職者の自殺の内訳（2016～2020 年合計）　＜特別集計（自殺日・住居地）＞

職業	自殺者数	割合	全国割合
自営業・家族従業者	8	17.8%	18.2%
被雇用者・勤め人	37	82.2%	81.8%
合計	45	100.0%	100%

資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計
・性・年齢・同居の有無の不詳を除く。

■高齢者関連資料

６０歳以上の自殺の内訳（2016～2020 年合計）　＜特別集計（自殺日・住居地）＞

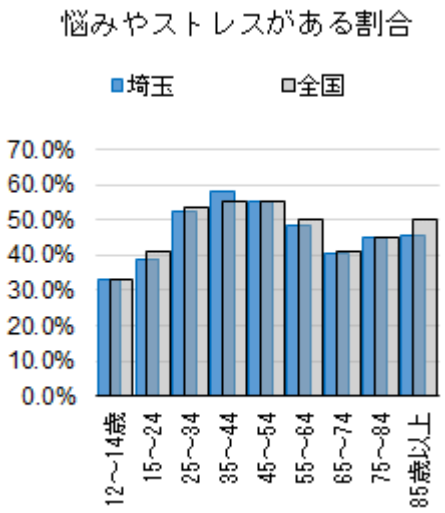
		自殺者数		割合		全国割合	
	同居人の有無	あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性	60 歳代	9	2	17.3%	3.8%	14.9%	10.7%
	70 歳代	11	3	21.2%	5.8%	15.0%	7.5%
	80 歳以上	5	4	9.6%	7.7%	11.3%	4.7%
女性	60 歳代	8	1	15.4%	1.9%	9.0%	2.9%
	70 歳代	2	5	3.8%	9.6%	8.9%	4.1%
	80 歳以上	2	0	3.8%	0.0%	7.0%	4.1%
合計			52		100%		100%

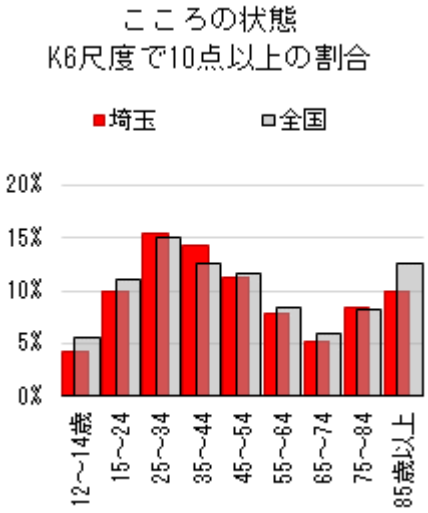
資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計
・高齢者（65 歳以上）の多くが無職のため、性・年代別の同居者の有無を示した。

■住民の悩みやストレス、こころの状態の状況（国民生活基礎調査）

12 歳以上の者（入院者を除く。）の日常生活での悩みやストレスの有無と過去 1 か月間のこころの状態

※ 本項目については市町村別の全国的な調査は行われていないため、参考として都道府県－21 大都市別および全国の年齢（10 歳階級）別の結果を掲載した。





資料：厚生労働省「令和元年国民生活基礎調査」（第 123 表・第 125 表）

・割合は回答不詳を除いて算出した。

・悩みやストレスの有無

悩みやストレスの有無は、「あなたは現在、日常生活で悩みやストレスがありますか。」について「ある」、「ない」のいずれかで回答したものである。

・こころの状態

こころの状態には、K6 という尺度を用いている。K6 は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の 6 つの質問について 5 段階（「まったくない」（0 点）、「少しだけ」（1 点）、「ときどき」（2 点）、「たいてい」（3 点）、「いつも」（4 点））で点数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとされている。

引用：厚生労働省（2020）「用語の解説」国民生活基礎調査.
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21-yougo_2019.pdf

■資料編

参考表１　生活状況別にみた背景にある主な自殺の危機経路（例）

生活状況				背景にある主な自殺の危機経路（例）
男性	20～39 歳	有職	同居	職場の人間関係／仕事の悩み（ブラック企業）→パワハラ＋過労→うつ状態→自殺
			独居	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み＋仕事の失敗→うつ状態→自殺／②【非正規雇用】（被虐待・高校中退）非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
		無職	同居	①【30 代その他無職】ひきこもり＋家族間の不和→孤立→自殺 ②【20 代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
			独居	①【30 代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺 ②【20 代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺
	40～59 歳	有職	同居	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み＋仕事の失敗→うつ状態→自殺
			独居	配置転換（昇進/降格含む）→過労＋仕事の失敗→うつ状態＋アルコール依存→自殺
		無職	同居	失業→生活苦→借金＋家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺
	60 歳以上	有職	同居	①【労働者】身体疾患＋介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺 ②【自営業者】事業不振→借金＋介護疲れ→うつ状態→自殺
			独居	配置転換／転職＋死別・離別→身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	失業（退職）→生活苦＋介護の悩み（疲れ）＋身体疾患→自殺
			独居	失業（退職）＋死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
女性	20～39 歳	有職	同居	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦＋子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺 ②仕事の悩み→うつ状態→休職／復職の悩み→自殺
		無職	同居	DV 等→離婚→生活苦＋子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①【30 代その他無職】失業→生活苦＋うつ状態→孤立→自殺 ②【20 代学生】学内の人間関係→休学→就職失敗＋うつ状態→自殺
	40～59 歳	有職	同居	職場の人間関係＋家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	職場の人間関係＋身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	近隣関係の悩み＋家族間の不和→うつ病→自殺
			独居	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺
	60 歳以上	有職	同居	介護疲れ＋家族間の不和→身体疾患＋うつ状態→自殺
			独居	死別・離別＋身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
			独居	死別・離別＋身体疾患→病苦→うつ状態→自殺

・背景にある主な自殺の危機経路はライフリンク「自殺実態白書 2013」を参考にしている。自殺者の生活状況別に見て代表的と考えられる経路の一例であり、記載の経路が唯一ではないことに留意。